

## 指導者の手引き



イエス・キリストのために「弟子づくり」をしなさいとの召しをあなたは聞いたことがありますか？ この小冊子には、成功のために必要なヒントが記載されていますので、注意して初めから終わりまで読んでください。

クリスチャンの仲間を「弟子」にすることは、もっとも報いある仕事の一つです。あなたが訓練する人々が霊の花を咲かせるのを見る大きな喜びだけでなく、あなた自身の神との歩みも強められるのです。事実、キリストの御心と使命にかかわる以上に、速く成長する道はないことを知るでしょう。そうです、「弟子づくり」はあなたの人生を変えるのです。

御言葉が地の果てまで伝えられるために、神はあなたを召しておられます。聖書に立ち返り、御言葉を掲げ、御言葉に生き、御言葉を受け渡すようにとの召しです。神は、「弟子づくり」のリーダーを求めておられます。

## 第1章 いきいき弟子講座へようこそ

この講座は、イエス・キリストの弟子をつくるという目的のために作られました。もちろんこれは、主の至上命令そのものです。「行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。……バプテスマをさづけ」、キリストが教えられたことをすべて「守るように教えなさい」（マタイ28：19、20）。私たちは隣人をキリストに導くだけでは不十分です。神の御言葉にとどまるのを助け、ほんとうに弟子のようにしなければなりません（ヨハネ8：31、32）。弟子をつくるのは容易な仕事ではありませんが、この講座はそれを助けることができます。この講座を通して、幾千もの人々が神の御言葉に深い喜びを経験してきました。あなたも成功する弟子づくりに乗り出してみませんか。

### 1-1 弟子づくりへの道

いきいき弟子講座は次のような方法で使用できます。

- ◆個人研究：自宅で、あなた自身のために学ぶことができる。  
もし課題ができなかったり遅れが出てきたら、パートナーまたは小グループの支援を得ること。
- ◆1対1の弟子づくり：パートナーと一緒に学ぶことは、霊的成長を助ける。  
その友人の人生に個人的に投資するのは、卓越した方法。
- ◆小グループ：より有用な弟子になるために、6－8人の集まりで共に研究する。  
よいチームは励ましを与え、動機づけを継続する。
- ◆教会の訓練講座：集中的に指導できる、組織的、年間信徒訓練講座。  
もっとも効果的。



## 1-2 教材

これから、「いきいき弟子講座」の概要と使い方を紹介します。各講座は次の順序でお使いください。

### ◆入門コース

暗唱聖句の入門です。聖書探究の5課からなり、その内容は、編集者からのメモ・週間目標・暗唱聖句の2つの鍵です。

これは、入門編として作られています。5週間グループとともに（または1人で）、聖句を暗唱し、暗唱した聖句のポイント「鍵」を学ぶことは、メンバーの献身度を評価するよい機会となります。もし5つ（5セット）の聖句を完全に暗記し、10の鍵を順序通りに学習できたら、おそらくその人は次のコースでもう順調に学ぶことができるでしょう。

このコースは、遠く離れて住んでいる人どうしても使用可能です。簡単でしかも自習可能なので、短い手紙をつけて、友人・家族に送ることができます。ある人は離れた場所にある教会にも紹介したいと思うかもしれません。そうすればもっと多くの人が変わられます。

### ◆基礎コース

このコースは、日常生活でイエス・キリストに献身してクリスチャン成長を目指すように企画された弟子訓練集中プログラムです。暗唱聖句の基礎的原則を復習しますが、第一の目的は、クリスチャンとしていかに御言葉を生き抜くか、そしてよい弟子になるかについての学びを助けることです。有用な奉仕に必要な基本技術を各人の生活の中に取り入れます。困難ではありますが、生活を変革するプログラムです。

9課で構成され、週間目標・編集者からのメモ・聖書探究・具体的助言からなっています。また「イラストレーション（記憶するためのたとえ）」の項目もあります。このコースは特に挑戦的です。なぜなら、個人の聖書研究で、祈りで、時間の使い方、などライフスタイルに具体的に変化を要求されるからです。単なる情報収集のためにこのコースを取らないでください。適用をゴールとして取り組んでください。各課題の達成をめざして努力する決意で取り組まなければなりません。

### ◆育成コース

このコースの役割は、もっと多くの働き人を生み出すことです。弟子づくりを始めるための、弟子に必要な教材とビジョンとを与えることです。キリストにある生活にインパクトを与え、チームを立ち上げるために必要な技術に焦点をあてて訓練します。

このコースは9課からなり、内容には週間目標・編集者からのメモが含まれています。聖書探究は毎週の聖句に焦点を合わせ、聖書の真理を自分で帰納的に引き出せるようにします。具体的訓練では、チームの中で働き人を育てる秘訣を与えます。「暗記テスト」は、リーダーシップを養うように作られています。この学びを通して、あなたのチームメンバーは、講座のイラストレーションを習得するよう求められます。これは、主の至上命令を完遂するための新約聖書に記されている戦略を捉える図表です。このコースを完了するころには、メンバーは他の人に投資（奉仕）を始めるためによく準備されていることでしょう。

増えていく働き人の群れ、暗記したたくさんの御言葉、彼らが神との歩みにすべてを活かされ、全世界に伝える情熱に燃えるのを想像してください。そして周囲の人々の心に点火する技術で装備され、信仰の仲間を育てるために鍵となり、他の人の訓練に尽くすことのできる大勢の男女が育成されていくことを想像してください。これがこのコースのゴールです。

## 1-3 イエスの模範

イエスは早い時期に12人を選び、リーダーシップの訓練をされました。彼らは、いかに御言葉を覚え、祈り、説教し、プレッシャーに対処するか、などについて学びました。彼らは、預言の成就をイエスのうちに見るようになり、真理が受肉された主をよく知るようになりました。主と共に在って、毎日、経験と霊的に成長していきました。

イエスの伝道生涯の終わりに、彼らも出て行って、同じようにするよう命令されました。「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」(ヨハネ20:21)。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに……洗礼を受け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」(マタイ28:19、20)。彼らは人々を導き、訓練しなければなりませんでした。

そして、それを実行しました。初代教会は「こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき」、爆発的に強くなりました(使徒言行録6:7)。数千人が回心し、使徒の教えを受け入れ、その地方一帯に散って、御言葉を告げ知らせて歩きました(使徒言行録2:41、42、8:4)。主の言葉はどこでも勢いよく広まり、実を結び、多くの働き手を生み出しました(使徒言行録19:20、コロサイ1:5、6)。

今日の大きな必要はこの同じ働き、男女を訓練するということです。霊的な再生産、御国のための働き人を生み出すことのできるリーダーを訓練することです。人を御言葉の深い経験へと押し出し、その人もまた同じようにできる人に育てること、神の軍隊に加わることのできるような、聖書の御言葉に満たされた男女を訓練し、遂に大宣教命令を完結すること、これらが私たちの目標です。

キリストご自身が始められたこの使命を担う用意があなたにはありますか。もし忠実に働くなら、報いは計り知れません。神は約束しておられます。「最も小さいものも千人となり／最も弱いものも強大な国となる」。事実、主は私たちの種を増やすと約束されます。「数えきれない満天の星のように、量り知れない海の砂のように」(イザヤ60:22、エレミヤ33:22)。

## 第2章 一般原則

次の提案はよいチームづくりに大切ですが、ガイドラインにすぎません。あなたが使用している講座のコースに応じて適当に変えてください。小グループに焦点を当てていますので、他の方法を使用している場合は、適宜参考にしてください。

### 2-1 チームを立ち上げる

新しいチームを立ち上げるのは、常に冒険的です。確認すべき事柄をあげておきます。

- ◆ 真剣な祈りの時をもつ。今チームをつくるのは神の御心かどうかをさぐる。神は多分あなたを初めは1人か2人で働かせるが、御心であるならば、チームを導くあなたを助ける人が与えられるはず。
- ◆ チームを持つことを教会のリーダーたちと話し合う。できる限りの支援と支持を求める。
- ◆ チームに誘うべき人々の名前を、神があなたに印象付けてくださるよう祈る。また、神が加わらせようとする人々も印象づけられ、献身するよう祈る。
- ◆ ちらし、ポスター、口頭でチーム発足日を発表し、いろいろな方法で宣伝する。
- ◆ 鍵となる人と会って、このことについて祈るよう勧める。
- ◆ 第1回の集会日を決め、その時間・場所に集合するよう呼びかける。もし何か費用があれば(教材費など)、開講前に集める。
- ◆ あなたは「指導者の手引き」を全部読み終えていて、一般原則がよく理解できていること。またこれから行う特別なプログラムにも慣れておく。いかにプログラムを組むかをよく把握しておく。

## 2-2 オリエンテーション

第1回集会の1週間前に、オリエンテーションの会合を持ちます。それまでにだれもが、このプログラムに参加希望の意思表示をする機会が与えられていなければなりません。この会合は短く、15分か30分がいいのですが、非常に重要です。次のようなことをしてください。

- ◆ なぜこのプログラムに参加しようと思ったのかを言ってもらい、もし参加者がお互いを知らないようならば、自己紹介の時間をとる。
- ◆ プログラムを簡単に説明する。彼らがそこに挑戦や努力が要求されることに気付いているか確かめる。ルカ14：28のような聖句を引用して、自らが支払うべきコストを計算するように励ます。
- ◆ クラスではなく、チームを作ろうとしている、だから皆が一緒に働く必要がある、と述べる。ある課題は骨がおれることもあり、成功するためにお互い励まし合わなければならない(ヘブライ3：13、10：24、25参照)。
- ◆ 第1課を配る。各項の要点を説明、特に週間目標に主眼をおく。もしメンバーに進め方がわからないような課題がある場合は、少し話し合ってみる。質問がないことを確かめる。
- ◆ 聖句を暗記することについて説明する。集会のたびに、各人が聖句を声に出して暗唱することを明確にしておく。
- ◆ プログラムの進め方について質問するチャンスを与える。しばしばこの時点で、各人はスケジュールが重なったり、予想される問題を持ち出してくる。似たような状況で、イエスがルカ9：57-62のように取り扱われたことを目ざす。
- ◆ 第1回集会の日時を確認し、お祈りで解散。

## 2-3 教材を配布

教材は、リーダーがまとめて教会牧師に申請し、入手してください。第1課はオリエンテーション時に、それ以降の教材は1週間ごとに手渡します。最後まで興味を保つためです。(注：欠席者に次の教材を渡せるように係を決めておくことよい。たいていは翌日に郵送するのが簡単。)

## 2-4 普通集会

時間割は、各集会とも下記のような流れで進めてください。一回につき、まる1時間をとってください、そうすれば、教材を大急ぎですませたという感じになりません。大事な課をする時にメンバーを遅くまで引き留めるよりも、ふだんから長めの時間をとっておき、時々早く終わる方がよいのです。

- 5分： 歓迎。少しの時間、メンバー同士の親しいあいさつ・会話。開講の祈り、時間通りに。遅刻者があっても始めること。
- 10分： 2人1組にして、聖句を言い、週間目標を完了したかを互いにチェックする。
- 15-20分： 聖書探究を話し合う。
- 15-20分： その課の訓練課題、イラストレーション、暗記テスト、その他を行う。この時間をどう使うかはプログラムによって変わってくる。
- 10分： 来週の小冊子を配り、それについて必要な説明をする。閉講の祈り、解散時間通りに。

## 2-5 暗唱聖句の奨励

暗唱聖句は、講座を成功させるもっとも重要な要素の一つです。メンバーの1人ひとりが聖句を覚えるのを、あなたはできる限り助けてください。訓練がうまく進むように、いくつかのポイントを挙げます。

- ◆ 初めての集会で、毎週、暗唱聖句を完全に暗記して、言えるようにすることをはっきり伝えておく。
- ◆ 混乱しないように、聖句は全員が同じ訳の聖書から引用する。
- ◆ 暗記を週の早い時期から始めるように勧める。ある聖句はやさしく、他の聖句は難しい。メンバーに、ぐずぐずしないように、またぎりぎりまで延ばさないようにと、注意をうながす。
- ◆ 基本を何回も復習する。毎週1つまたは2つのポイント「鍵」を強調、聖句を完全に暗記し、前後に聖書の箇所を言う、一日も欠かさない、など。
- ◆ 集会の初めに、2人1組になって暗唱聖句を言う。第1課の聖句からその週の聖句まで全部を復習。1人が聖書の箇所を言い、もう1人が聖句を暗唱する。次は交替して行う。今週の聖句を、見やすい所に貼ってもよい。
- ◆ 毎週同じ人たちがパートナーにならないようにする。
- ◆ この復習時間を制限。敏速に効率的に行うようにする。聖句の量に従って5-10分以上にならないこと。
- ◆ プログラムの終わりごろには、パートナーを前後入れ替えて、それぞれが1つおきに暗唱してもよい。復習時間を半分にできる。
- ◆ あきらめないこと！ ある人はゆっくりで、本気になるまで時間がかかる。挑戦・期待をもち続ける。もしだれか遅れぎみになったら、まず今週の聖句だけにしぼり、できるようになったら、遅れた聖句だけを行う。
- ◆ 決して罪悪感を動機づけにしない。ただ肯定的な勇気づけだけにする。問題があれば個人ではなく全員に言う。もしだれか個人的な助けが必要ならば、その人だけに会う。人前で当惑させることがないように。
- ◆ 将来覚える聖句のリストを作り始めるように勧める。聖書探究をする途中、いろいろなすばらしい聖句に出会うので書きとめておく。そのリストは、それらを暗記する時の動機づけとして役立つ。
- ◆ もしあなたが次のプログラムでも同じグループを担当するなら、前の暗唱聖句を毎週復習させる。または、数週間に1度、前ぶれなく行う。
- ◆ 早い時点で、復習聖句用のカード（単語帳のようなもの）を用意させる。復習を組織的に定着させるかどうか、訓練修了後も聖句の暗唱を続けるかどうかの要因になる。このカードを全員が持つまで言うこと。
- ◆ 最後に、あなた自身が暗唱聖句を始めから終わりまでスラスラと唱えて、メンバーに生きたインスピレーションを与える。御言葉を口にして生かし、新鮮にし、力強くすることは、ほんとうに可能であることを、あなた自身の生き方によって示す。

## 2-6 聖書探究の指導法

聖書探究の復習時間は、メンバーがすでに発見したことを話し合うためです。この時間から多くを学び取れるように、いくつかの提案を記します。

- ◆ 各自が聖書探究を前もって終えておく。あなた自身も完璧に！
- ◆ 聖書理解は聖霊のご臨在によるもの。常に、導きを求める祈りでディスカッションを始める。
- ◆ 第1問を読み、だれか1人に何と書いたかを言ってもらおう。次の問いも同様にして一巡し、皆に答えるチャンスを与える。用意のできていない人はとばす。また特別な理由がないかぎり、聖句を見たり読んだりする時間は取らないようにする。
- ◆ 育成コースでは、一巡しなくてよい。2、3人にチャンスを与え、まとめとして書いたことを読んでもらう。発見、原則・応用、要点について同様に行う。
- ◆ 時にはあなた自身の感想を述べる、また重要な聖句・美しい聖句をとりあげて読んでもらう。単調にならない工夫をする、変化を加える。
- ◆ 静かな人を引き出す努力、口数の多すぎる人を静める知恵を用いる。
- ◆ もしだれかが「間違っただけ」答えをしたら、他の人がその聖句に別な考えを持っているかどうか聞く。または、その聖句をもう一度読み、更なる洞察や疑問を引き出す。キーポイントをさまざまな角度から見る余地を残すこと。
- ◆ あまりたくさんのポイントを強調しないように、また学習を本筋から離れさせないように。やさしく、しかしきっぱりと、進める。15分から20分で完了するように。

これらの学習のゴールは情報収集ではなく実践です。そのためには、学びを通して何を知ったか、またそれをどのように実践するかなどを総括して話し合いを終わるように常に心がけてください。そしてメンバーに行動への献身を促してください。個人の生活への応用と御言葉への服従をいつも強調してください。

## 2-7 実施訓練

この講座では、ほとんど聖書研究を実施訓練と結び付けています。この訓練の性質そのものはコースによって変わってきますが、次の一般的な提案はこの教材全体が役立つことを証明しています。

- ◆ 実施訓練のページを始める。皆が教材を読むことができたか尋ねる。答えを待つ。毎週の教材を注意深く読むように励ます。
- ◆ 教材の内容を短くまとめさせる。あなたが要点を全部説明するまでに、彼らが言及できなかった細かい点を質問させる。ある人は読んでいなかったり、ある人は大急ぎで目を通しただけ、ということ想定。ていねいな説明は、たいていいつも役立つもの！
- ◆ 質問があるかを聞き、できるものは答える。もしあなたが答えられない質問があった場合には牧師と相談する。
- ◆ 説明には、あなた自身の生活からできる限りたくさん例を使う。自分の復習ファイル、『ぶどうのえだ』ノート（祈りの日誌、朝の務めノート）などを持参する。教える原則の生きた展示物。
- ◆ 教えられたことがどのように祝福となったかをあかしする。前もって考え、メモに書き留め、そして真心で話す。
- ◆ 最後に、学んだ原則を個人の生活に融合させる大切さを強調する。彼らはまずこの提言に従い、後に必要に応じて選択していく。

## 2-8 祈りの時間の持ち方

集会の終わりには特別な祈りの時間をとる必要があります。開講や聖書探究前の祈りとは異なり、慌しさを感じないように充分時間をとります。この祈りの時間の意義については最初からではなく、徐々に説明するよう気を遣ってください。入門コースを指導する時は、自らが祈って閉会するか、またはだれか1人にしてもらうかのいずれかでよいでしょう。基礎コースのころには2-3人に頼むことができるでしょう。それから徐々に祈りの時間を増やし、祈る人も増やし、より会話的に祈るようにしていきます。最後には、一巡して全員が献身の祈りをささげるまでに導いてください。

時には祈りのリクエストを募ってもいいですが、目下学習中の課題に焦点を合わせた祈りの時間を守るようにしてください。変化を起こす力を祈ってください。より大きな信仰、献身、熱情などを求めてください。メンバーはこの種の祈りがエネルギーとなるのを見てください。集会ごと祈りの時間が真実の時でなければなりません。また、自分の家でも、チーム仲間のために祈るように勧めてください。

## 2-9 総まとめ集会

必ず必要なものではありませんが、最後の集会では（またはその後に）コース完了のしるしに何か特別なプログラムを計画することをお勧めします。念入りに計画し、できるだけ意味深いものにしてください。提案をいくつか挙げてみます。適当に選んでください。あなた自身のアイデアで創造的に計画してください。

- ◆ （まだ全部を終えていなければ）最後の課を指導する。
- ◆ ペアを組み、すべての暗唱聖句とイラストレーションとを復習。  
全部の問題を済ませた人たちに修了証書を授与。
- ◆ 会食または親睦会、ピクニック、アウトリーチ・イベントなど。
- ◆ どのように有益だったか、感想・証を述べてもらう。
- ◆ 全員に紙一枚を配る。そこに自分の名前を書き、次の人に渡し、次々と渡す。  
1人ひとり皆が、紙のトップにある名前の人について感謝などを書き、次に渡す。  
その紙が本人に戻ってくると、その人はチーム仲間にとってどんなに祝福であったかの記録になる。
- ◆ 今後について話し合う。学んだことを基に今後の計画を述べてもらう。  
次のコースに進む、あるいは自分のチームを立ち上げるなどを奨励する。
- ◆ 祈り。学んだことを実行する信仰、変えられた生き方を継続できるように、祈る。
- ◆ 手をつなぎ、献身の讃美歌を歌う。

## 2-10 リーダーシップの秘訣

よいチームの重要なポイントは、あなた＝リーダーです。あなたのリーダーとしての成功は、チームメンバーとの人間関係の質次第で決まるでしょう。関係が強ければ強いほど、ますますよく彼らを励ますことができます。一つの鍵は、集会以外のつながりです。電話をかける、一度に1、2人ずつ、食事に招く、ハガキやEメールを送るなど、メンバーの生活にかかわることをして、あなたが1人ひとりのために祈っていることを皆に気付かせてください。あなたが心づかいを示し、彼らの成功のために働けば、変えられます。愛は決して減びません（コリント1・13：8）。

グループをうまく指導するには献身が不可欠なので、たいていは小さなチームで始めるのがよいでしょう。大きなグループを担当して熱意が続かないよりも、2、3人にあなたの人生を注ぎだした方がより成功し、真の変化を生みだします。小さく始め、質を重視してください。やがて、あなたのそばに働き人の群れが生まれ、大きなグループになるのを手伝ってくれるでしょう。信仰を持って進んでください。

あなたが1、2人のパートナーを探して、いっしょにチーム指導の責任を持ってもらうことを提案します。あなたの時間が短縮されるだけでなく、一味違う力や才能がチームに加わり、ひいては参加者募集につながるのです。最大のポイントは、もう1人のリーダーを養成する、すなわちあなたの究極の目標を達成することになることです。

責任はリーダーたちの中でいろいろと分担できます。家庭を集会場所に提供する、ホスト・ホステス役に奉仕、車の送迎アレンジ、または欠席者に講座を郵送、講座のそれぞれのセクション（聖書探索、具体的提案、その他）を順番で担当するなどです。集会と集会の間に少なくとも一度、リーダーたちと簡単に電話で打ち合わせ、進捗を評価し、次回の予定を確認し、祈ってください。

## 2-11 学び続けよ！

弟子づくりは大切な仕事です、だからこそ一生懸命取り組む価値があります。来る週も来る週も絶えず学び、考え、企画し、成長しなければなりません。祈りに長い時間を費やしてください、神にチームを導く知恵を求めてください。どのグループも異なります、ですから、メンバーそれぞれに適切な方法を用いる識別力が必要とされるのです。指導の途中でも、できるだけこの『指導者の手引き』に何度も目を通し、1回目で見落とししたヒントを拾い集めるよう努めてください。そのつど、あなたのリーダーシップを改善する方向に印象づけてくださるよう祈ってください。気づいた問題点やうまくいったアイデアなどをメモしておいてください。経験と学習とは一体です。あなたのゴールは、すべての集会が前回よりよいものとなることです。

## まとめ

- ◆ 弟子づくりには4つの方法がある：個人研究、1対1の弟子づくり、小グループ、教会訓練。
- ◆ イエスは御言葉にもとづいた増幅伝道の模範。主のご計画は世界に到達すること。
- ◆ 祈りと努力が新しいチーム成立の鍵。
- ◆ オリエンテーションで、メンバーは、何が期待されているかをはっきり悟り、その価値を数えるようチャレンジを受ける。
- ◆ 集会は、聖書研究・祈り・信頼性・訓練を含む。
- ◆ 暗唱聖句を励ます。聖書探究のチームによる復習。具体的訓練を実施。祈りの時間には特別な方法がある。
- ◆ 最終回は、意味深く、人生変革となる集会を計画できるチャンス。
- ◆ リーダーシップのもっとも大切な鍵は、チームメンバーを真に愛し、個人的に投資すること。
- ◆ リーダーとして自分たちも学び続け、最高峰を目指して努力する決意をすること。